

令和2年度第1回あわらし郷土歴史資料館運営協議会会議録

日 時：令和2年10月7日（水）
午前9時30分から
場 所：金津本陣 IKOSSA 3階
市民文化研修センター研修室1

（日程）

1. 文化学習課長あいさつ
2. 議題
 - （1）委員長選出
 - （2）新型コロナ禍後の資料館イベントのあり方について
 - （3）郷土歴史資料館の評価指標について
3. 報告
 - （1）常設展示の見直しについて
 - （2）出前授業の拡充について
4. その他

（出席委員）

水野 和雄 吉田 純一 長谷川裕子 宇都宮 高栄
能美 進 荒木 秀子 寺井 玲子

（事務局）

文化学習課長 笹木 幹哲 郷土歴史資料館館長 平井 俊宏
郷土歴史資料館館長補佐 九千房 英之 郷土歴史資料館学芸員 林 淳
郷土歴史資料館 角 衣利奈

【文化学習課長あいさつ】

【委員紹介】

【議題1】委員長選出

事務局：令和2年度より委員改正となっているため、委員長の選出を行います。

委 員：水野先生にお願いしたい。

事務局：水野先生にお願いしてもよろしいか。

委 員：異議なし。

事務局：それでは水野先生に委員長をお願いします。委員長から副委員長の指名をお願いします。

委員長：吉田先生にお願いしたい。

事務局：吉田先生に副委員長をお願いします。進行は水野委員長からお願いします。

【議題2】：新型コロナ禍後の資料館イベントのあり方について
(事務局より説明)

委員長：三密の中どういうイベントが考えられるか意見はないか。

委員長：野外でのイベントでも良いのか。

事務局：企画展「金津奉行」展では金津宿巡りを考えている。

委員：神宮寺城でのイベントは参加者が多人数だった。それを踏まえてグループを2班作るなどの対策が必要だ。

委員：イベントや講演会などは複数回実施していく方向がいいだろう。

委員：講演などオンラインでの同時配信は考えているのか。

事務局：現状は難しい。公民館は準備のため予算要求をしている。

委員：ホームページから映像を見ることはできないか。また過去の資料もダウンロードできるようにしてほしい。

事務局：わかりました。

委員：ケーブルテレビなどメディアに投げ込みをして映像化できないか。

事務局：ニュース番組で15分程度ならできるが、30分単位の番組を1本は難しい。

委員長：資料館のホームページはあるのか。

事務局：「あわら市郷土歴史資料館」で検索してもらえれば見つかる。

委員長：充実させてほしい。

委員：貴重なデータを探す取り掛かりはホームページだ。

委員長：ホームページにアクセスしたいと思わせる案内やきっかけが大事だ。

委員：何か目玉があればホームページにアクセスすると思う。

委員長：他の団体と実施した、例えばたたらの実演などをホームページにアップし、参加者にみてもらうのも面白いのではないか。

事務局：一つの方向性として考えていきたい。面白いと思わせるにはどうしたらいいか。

委員：まず、学芸員にじっくり考えてもらう時間が大切だ。

委員：ケーブルテレビに働きかけ史跡の紹介を広報してもらうのはどうか。

事務局：市のネットテレビで「トマ娘のほっとニュース」がある。この中にこれまで史跡等を撮影したものがあるので、編集したデータをもらえるか、政策広報課へ聞いてみたい。

委員：史跡巡りを継続して実施したらどうか。

委員：「触れてみて感じる」を踏まえた展示やイベントを実施してもらいたい。例えば、家庭で代用して作れるものがあるといい。

委員：一般人から国や県、市指定の文化財の写真を応募してもらい、その写真を展示すれば見に来てもらえるのではないか。

事務局：色々なご提案ありがとうございます。他にも何か面白い案があれば、いつでも当館までお寄せください。

委員：出土した土器を接合復元するなどのイベントに使えないか。

事務局：ある程度復元はできる土器片はあるが、コロナ禍においては毎時消毒作業しなければならないので、負担を考えると難しい。

委員長：市民の参加が大事だ。

委員：企画展「北潟湖ほとりの古代役所と塩づくり」の関連イベントはないのか。

事務局：関連講演会を予定している。

【議題】 3：郷土歴史資料館の評価指標について

(事務局より説明)

委員：ホームページのアクセス件数も指標になるのではないか。資料を公開すれば地域住民が調べるためアクセスするだろう。

事務局：社会教育施設ではあるが、観光も視野に入れたいといけない。市民はイコッサを知っているが資料館は知らない人が多い。

委員長：入館者数は第2の指標である。市民が資料館を知って来館してくれたかが指標になるのではないか。しかしそれをどう評価するかは難しい。

委員：出前授業の人数も加味した指標はどうか。

事務局：市民に開かれた資料館としてレファレンスも指標の一つとしてできないか。

委員長：資料館へ来館すれば知りたかったことを解決できる。資料館に関連した本を置く。そして外に向かって発信することが大事だ。

委員：入館者数およびレファレンスを指標としてすべて入れてはどうだろうか。

事務局：現在の入館者数だけが重視される指標のあり方は見直していきたいと思う。

委員長：今年の指定区を決めて調査を行い、区の案内者とコラボレーションしてイベントを実施すれば地元との付き合いにつながるだろう。

委員：金津まちなかガイドとコラボレーションしてボランティア養成講座を行い、ガイドにその成果を発表してもらってはどうか。

【報告】 1：常設展示の見直しについて

(事務局より説明)

委員長：解説パネルはフリガナをふって字だけを読んでいても意味を捉えられない。吉崎や多賀谷左近、文書などきちんと説明してほしい。

事務局：文書はレプリカを展示し入れ替えていきたいと思う。

委員長：横山古墳群が展示にないので分布図などを入れてほしい。

委員：あわら市全体の歴史になっていない。一般的な歴史に付随しないといけない。解説を横書きにするのであれば、順路は左からになるのではないか。

事務局：出入口に近いジオラマが近世なので、新しい時代から古い時代へ行く順路になっている。

委員：縦書きにしたらどうか。小学生にも分かるような土器の使い方を解説してほしい。弥生時代ゾーンに竪穴住居があるが時代をさかのぼっていいのではないか。また、アクセサリーをつけられるコーナーがあるといい。

委員：江戸時代ゾーンに福井藩と加賀との関わりを入れてほしい。加賀市はあわら市と県境だから重要だと思う。

事務局：検討し、取り入れられるものについては導入していきたい。

【報告】 2：出前授業の拡充について

(事務局より説明)

委員長：以前から行っているのか。

事務局：3年ほど前から実施している。

委員：学校での授業は講義式であるため、ふるさと学習では資料館を活用し現物を見る、触るなど資料館にしかできないことをしてほしい。

事務局：金津小学校は徒歩で資料館まで行けるが他の小学校はバスがないと難しい。バスの費用は市が補助しているが、何処へ行くかは各学校が選んでいる。来られないところの為に、出前授業の拡充が不可欠となる。

委員：以前、生徒を発掘調査へ連れて行ったこともある。資料館ならではのことを考えたほうが良い。

事務局：この地域でないと見られないものを大切にしている。出前授業では7つのプランを用意した。その中から応募するスタイルだが他にも要望があれば対応できる。

委員：複数ご用意していますという文言は言い方を変えた方がいい。

委員：子供たちが放課後などに立ち寄りたりすることはあるのか。

事務局：子供たちは民話のビデオを見に来たり、バスの待ち時間に来る。

委員長：子供向けのイベントとして探索隊などはどうか。文化財パトロールの方たちなど色々な人を活用してはどうか。

事務局：検討したい。

委員長：他に何か質問や意見はないか。無いようなので、これで議事を終了する。